

ロゴマーク 入賞作品



最優秀賞

作者コメント:

自然豊かな広見線を楽しそうに走る
電車をロゴマークで表現しました。

見る人が明るくいきいきしたイメージを
受け取ってもらえるよう目指しました。

たかい さち
高井 沙知

(岐阜県・主婦)



優秀賞

作者コメント:

手書き風のイラストとハートで赤電とし
て愛される名鉄広見線を、波打つ線
路で楽しく走り続ける電車を表現しま
した。



ひらいわ あやこ
平岩 彩子

(愛知県・主婦)



特別賞

作者コメント:

名鉄広見線の車両を可愛らしいキャラクターにしているんな世代からより親しみを持たれるようマークをデザインしました。バックには 100 の文字を配しています。

いけだ かつや
池田 克也

(埼玉県・グラフィックデザイナー)



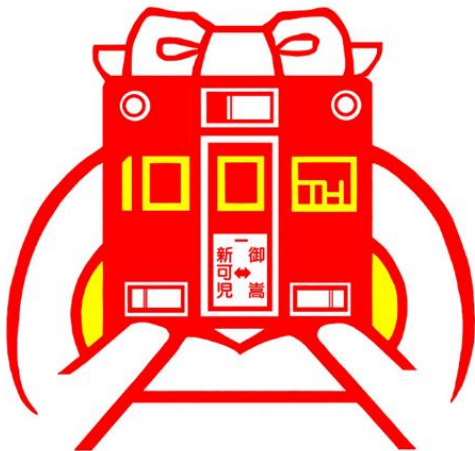
特別賞

作者コメント:

名鉄広見線をたくさんの想いが集まる場所と考えロゴマークをデザインしました。トレードマークの赤を活かし、名鉄広見線をハートで包み込むというアイデアをデザインの軸に、親しみやすさと愛らしさを加え、名鉄広見線がますます笑顔で溢れる空間になればと願いました。

たけかわ みゆう
武川 美裕

(東京都・フリーデザイナー)



特別賞

作者コメント:

広見線の車体を「プレゼント」に見立て、「100TH」と形どることで、100周年のお祝いを表現しました。また、周りのアーチは、プレゼント箱を包み込む「手」と、がレールに乗り進み抜ける「トンネル」の2つを表しています。この100年、広見線は、地元の人々の暮らしに様々な喜びを届け想いを運ぶ、贈り物のような存在であったと思います。そして同時にそれは、広見線が人々の手によって、まるで宝物の箱のように守られ、愛しまれてきたからこそ繋がれてきた100年だったのではないかと考えます。そのような、人を支え、また、人に支えられる姿をプレゼントの形で描くとともに、広見線が、これまでの幾多の困難というトンネルを抜け、また次の100年に向け走り出していく姿を、名鉄広見線のイニシャル「M」「H」を形どったレールに載せ表現することで、広見線と沿線の方々をはじめとする人々の輝く未来への想いを込めました。

うえの じゅんこ
上野 絢子

(東京都・事務職)